

第 8 回 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議 議事要旨

■日 時：2019 年（平成 31 年）3 月 26 日（火）午前 10 時 00 分から午後 12 時 00 分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 5 階 5-1 会議室
（神奈川県藤沢市朝日町 1-1）

■出席者（敬称略、50 音順）

会 長：柳沢厚

副会長：岡村敏之

委 員：相澤光春、浅井了之、石井博之、石川佳章、大矢卓嗣、小川高司、川崎隆之、
北村和利、小林寿美恵、佐藤大作、柴田賢一、長瀬輝行、西村靖生、
林正行、山田秀幸

事務局：藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1. 開 会

2. 議 事

- （1）これまでの検討の振り返り等と南口駅前広場の再整備の方向性について
- （2）南口駅前広場再整備基本計画（素案）について
- （3）目指す将来像について

3. その他

■議事概要：

○第 7 回あり方検討会議において出された意見のまとめを説明し、その後事務局からデッキの再整備時の行政の支援や今後の進め方に関する説明があり、それまでの議論をまとめた基本計画（素案）を提示した。その内容を踏まえ、デッキの再整備の方向性、南口駅前広場及び目指す将来像にふさわしい言葉について意見交換を行った。意見交換の概要は次のとおりである。

<基本計画の内容について>

- ▶ パターン C は調整が非常に難しいため、実現の可能性が低くなると思う。調整が出来なかった場合の対策を考えておくことが現実的かと思う。
- ▶ コンセプトに基づいた駅前広場整備ができるようコンセプト、目指すべき駅前広場の内容を改めて確認する必要がある。
- ▶ 一般車の送迎とアクセスのサービスレベルは下がっている案のように感じる。そのあたりの改善が今後なされるとよい。個性ある駅のデザインやまちづくりが行えるよう、地元の資源をどのように取り入れるかなど具体的に考えていただきたい。
- ▶ 藤沢の駅前というのは南口だけではないため、今まで議論はされていなかったが、北口、自由通路と南口の役割分担、目指すべき方向、その連携の仕方等に触れた上で、南口の整備の方向が示されても良いのではないか。
- ▶ 北口のペデストリアンデッキから自由通路、南口駅舎と整備が進んでいくが、まちづくりのコンセプト、地下通路なども含めた大きな共有できるコンセプトがあると藤沢独自のまちづくりができるのではないかと考える。
- ▶ パターン C でデッキを整備していくのであれば、民地側が協力してよかったと思える補助や支援策を実現していかないと地権者側は納得できないと思う。
- ▶ パターン C を目指して検討を行うことは承知したが、将来においても、きちんとネットワークを担保する前提で協議を行っていただきたい。
- ▶ 現計画に対しては反対である。駅とのかかわりを含めた広場の拡張を考えないと、車を締め出すだけになる。北口とのつながりについて、計画上の記載もない。長期にわたって市民に不便を強いる計画であるため、良い計画とは言えない。デッキは延命処置し、駅の計画を含め最善の時を待って整備することがよいのではないか。
- ▶ パターン C として整備されるまでの過程を分かりやすく示してほしい。
- ▶ 隣が反対と言われればデッキが繋がらないところが出るのは問題がある。パターン A を担保したうえでパターン C を目指すとして欲しい。また、もう少し分かり易い絵にしていただけると検討し易いと思う。
- ▶ 成熟した藤沢で川崎駅西口のようなデッキネットワーク整備は難しいであろう。非常に長い時間をかけて完成するためその間は不便になる。現状を維持し将来的にどうするかを考えないと市民に迷惑をかける。パターン C は同一平面で実現できればよいが、JR 側と江ノ電側で 2m10 cm の高低差解消が現在示されていない。今後そういった問題点の解決について示していただきたい。
- ▶ デッキの整備パターンで地上の交通処理が変化することはないだろう。コンセプトを実現するためには一般車に少し離れたところで乗り降りを行っていただくという我慢をしていただくことになる。一般車を入れないということが目的ではない。機能は確保するけれども、別の場所で確保するということが、「トータルでこれが良い」という説明が必要である。そうでないと一般車を入れ、最悪の事態になる。地上の基本的な空間

のあり方、コンセプトを共有したうえで一般車、時間、使い方について我慢をしていた
だく、またこういう我慢の仕方ができるという説明をしていていただきたい。

- ▶ ビル建て替えまでのデッキネットワークの担保についてはきちんとしていただきたい。
- ▶ デッキを作り替える場合、公共が主体で行うことになる。その代わりにビルの中に作る
ことになる。それなりの支援があつてしかるべきである。それにふさわしい支援をどこ
までできるかという対応をしていただくことを前提にパターン C を目指してみなさん
で議論、協議をしていくとする。

<目指すべき将来像について>

- ▶ 心の充足感を満たすというニュアンスがあると良い。
- ▶ 言葉で藤沢駅だと感じられる、個性的な言葉であるとよい。
- ▶ この言葉の使い方によると思う。デザインの憲法みたいなつかい方であれば、具体的な
ものもいいし、藤沢全体と言うことであれば、例示程度でもよいのではないか。
- ▶ 風、光、太陽などがあれば良い。通過点だけではない。「繋いでいく、過ごしていく」
ということがあってよいのではないか。
- ▶ 湘南・藤沢らしい海や波を使い、笑顔の波がよせる、などがよいのではないか。うるお
い、充足感などと繋がるのではないか。
- ▶ 方針3つがうまく言い表せるようなものがあるとよい。
- ▶ ビルのデザインも含めたコンセプトみたいなものもあれば良いと思う。
- ▶ 今やろうとしていることは、長い将来にわたって残ることであるため、イメージを伝え
るのではなく、現代から次代へつながる等の、心意気やみなさんの気持ちが一つにまと
まっていけるようなものとなる言葉がよいと考える。
- ▶ にぎわい、活力などはキーワードとして入れてほしい。江の島の通過点とならないよう
な駅前広場を目指していただきたい。
- ▶ ローキー（ゆるい、のんびりとした）とハイキー（企業が最先端を求めるような緊張感
のあるイメージ）という言葉があり、藤沢はローキーなのではないかと考える。

<その他>

- ▶ 今後、基本計画については議会にて報告をしていく。パブリックコメント等の実施を予
定している。
- ▶ 基本計画のとりまとめは会長、事務局に一任していただきたい。